

2017年度 自己点検・評価【教育学部】

C票

<目標、行動計画>進捗確認シート

提出日:2018年2月22日

2021年度に向けた教育研究目標

| | | | |
|-----|-------|------|------|
| 責任者 | 教育学部長 | 作成部局 | 教育学部 |
|-----|-------|------|------|

【A票:教育研究目標1】

(タイトル)

Mastery for Serviceの精神を「教育」に焦点づけ、世界市民の一員として、「人を育てる人となる」ことに使命を感じ、そのように自らを育てる力量を育成すること。

(狙い内容)

基礎演習とチャペルアワーを通して展開する自校学習メニューの構築。
教育学教育・教育者の養成においてMastery for Serviceの精神をどのように焦点づけるかについてのヒントを得ることができるような講演会・研究会を組織化する。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

基礎演習等での自校学習を充実させるとともに、毎日のチャペル・アワーとも連携して使命感喚起の機会を組織化する。
専任教員がMastery for Serviceの精神をよく理解し、各授業との関連性を示し、教育内容に反映させることができる。

2. 達成度評価

| | | | |
|------|--|------|--|
| 評価指標 | (1)基礎演習での共通の自校学習メニューの確立とその学び合いのためのFDの定例化(宗教主事と基礎演習担当者との自校学習検討会の開催)。 (2)Mastery for Serviceの精神をどのように焦点づけるかについてのヒントを得ることができるような講演会・研究会の開催 | 評価尺度 | A : (1)学期内2回 (2)年2回 B : (1)学期内1回 (2)年1回 C : (1)学期内1回 (2)年0回 D : (1)学期内0回 (2)年0回 |
|------|--|------|--|

3. 年度毎の目標値

| | | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|-----------------------------------|--------------------------------|--------------------|-------------------------|--------|---------------------|--------|--------|--------|
| 2016年度 自己点検・評価時点 | | D | D (1)学期内0回 (2)年0回 | C | C | B | B | A |
| 2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値 | 評価 尺度: A~D | D | D | 見込み | D | | | |
| | 見込 実績・ 目標 (値又は 状況) | (1)学期内0回 (2)年0回 | (1)学期内0回 (2)年0回 | | (1)学期内1回 (2) 年0回 | | | |

【2017年度の進捗状況について】

基礎演習での共通の自校学習メニューの確立に向け、担当者の個々の授業内の取り組みはすすんでおり、各担当者の創意工夫のもと、自校学習メニューの授業が展開されるようになってきている。そのことについて、担当者会をとし、情報交換がなされているが、宗教主事と基礎演習担当者との自校学習検討会の開催には、まだいたっていない。
各専任教員はMastery for Serviceの精神をよく理解し、各授業との関連性を考え、教育内容に反映させているが、Mastery for Serviceの精神をどのように焦点づけるかについてのヒントを得ることができるような講演会・研究会は、まだ開催することができていない。
なお、評価尺度に関しては、①ではB、C、②ではC、Dが同回数となっているが、行動計画①②とも教育研究目標に準拠する設定をおこなっているため、それぞれ関連した評価尺度としている。

2017年度 of 取組み状況の確認

| | |
|---|------------------|
| 2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? | → はい () いいえ () |
| <p><上記で「いいえ」を選んだ場合></p> <p>①理由: 基礎演習での共通の自校学習メニューの確立に向け、担当者の個々の取り組みはすすんでおり、各担当者の創意工夫のもと、自校学習メニューの授業が展開されている。そのことは、担当者会をとし、情報交換がなされているが、宗教主事と基礎演習担当者との自校学習検討会の開催には、まだいたっていない。</p> <p>②今後必要な取組み: 宗教主事と基礎演習担当者との自校学習検討会の開催</p> | |

<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月22日公示

- ・ 2021年度に達成する目標設定となっておりますが、事項学習検討会・講演会・研究会ともに準備ができた段階で前倒しで開催することが期待されます。(A)
- ・ 取り組み状況の確認を拝見しますと、真摯に取り組んでいることは理解できます。しかしながら、目標の達成度評価の評価指標は、学生の学習成果の観点から設定されることが期待されます。(B)
- ・ 目標に向けて今後の進捗が期待されます。(C)
- ・ 「2017年度の取り組み状況の確認」が「はい」になっているにもかかわらず、「いいえ」に対応した記述がされています。
- ・ 行動計画①、②ともに、評価尺度が適切に順序尺度化されていません。(D)
- ・ 2015年度の教育研究目標設定以来ほとんど進捗が見られません。昨年度の第三者評価が今年度どのように反映されたのか具体的な改善内容の記述が求められます。(E)
- ・ FD定例化、講演会の実行が期待されます。(F)
- ・ 本学の特徴であるMastery for Serviceの精神が、今後の学生の学びに更に繋がることを期待しています。(G)
- ・ 行動計画①の評価尺度のBとCがともに学期内1回となっており、評価尺度の見直しが必要です。
- ・ 行動計画②の評価尺度のCとDがともに年0回となっており、評価尺度の見直しが必要です。(I)

【A票:教育研究目標2】

(タイトル)

「教育とは何か」「人間とは何か」を不断に問いつつ、自ら理論と実践を往還し、教育学的思慮深さと自律的意思決定能力を有した教育者としての実践的行動力の基礎を育成すること。

(狙い内容)

新カリキュラムの全体としての理念を「学びの共同体」を通じて実現できるように、各授業でのアクティヴ・ラーニングの導入をすすめるため、「協同学習室」の利用率を高める。
教育学部内の他の授業実践を相互に知り、学び合うための公開授業や研究会の定例化と参加率の向上。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

「教育学専門科目」と「リベラル・アーツ」を関連させた履修体系をつくり、学びの段階を設けて、広く深い教養と教育学的素養を身につけるシステムを再構築する。「学びの共同体」としての実質を獲得するために、大学の授業実践に関する検討会を教員間でもつ。

2. 達成度評価

| 評価指標 | (1)「協同学習室」の利用率 (2)教育学部内の他の授業実践を相互に知り、学び合うための公開授業や研究会の定例化参加率の向上 | 評価尺度 | A : (1)70%以上 (2)年2回, 70%以上 B : (1)60%以上70%未満 (2)年2回, 60%以上70%未満 C : (1)50%以上60%未満 (2)年1回, 50%以上60%未満 D : (1)50%未満 (2)年0回, 50%未満 |
|------|---|------|--|
|------|---|------|--|

3. 年度毎の目標値

| | | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|-----------------------------------|--------------------------------|---------------------------|--------------------------------|--------------------------------|---|--------|--------|--------|
| 2016年度 自己点検・評価時点 | | D | D (1)50%未満 (2)年0回, 50%未満 | C (1)50%以上 (2)年1回, 50%以上 | C | B | B | A |
| 2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値 | 評価 尺度: A~D | D | D | 見込み | C | | | |
| | 見込 実績・ 目標 (値又は 状況) | (1)50%未満 (2)年0回, 50%未満 | (1)50%未満 (2)年0回, 50%未満 | 見込み | (1)50%以上60%未 満 (2)年1回, 50%以 上60%未満 | | | |

【2017年度の進捗状況について】

聖和キャンパス2号館:リブラが完成し「協同学習室」の利用率はあがってきている。2017年7月のフリースペースの占有率は、全時間帯を平均して、51%であった。教育学部内の他の授業実践を相互に知り、学び合うために、FD研究会を開催(講師:時任 隼平先生)し、シラバス作成と授業方法について、教員間で話し合った。参加率は50%以上であった。

2017年度の取組み状況の確認

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → はい いいえ

<評価専門委員・第三者評価結果(案)> 2017年12月22日公示

- ・リブラの積極的な活用が期待されます。(A)
- ・行動計画の評価指標が「利用率」「開催数と参加率」となっており、学生がえる学習成果の観点から指標を設定することが望まれます。(B)
- ・「協同学習室の利用率」の算出方法が不明です。その明記が求められます。(D)
- ・教育研究目標と行動計画が同一となっています。行動計画によってどのようなアウトカムが生まれるのかが明確となる教育研究目標と評価指標が求められます。単純な利用率が教育研究目標にどうつながるのか、シラバスの研究会が教育研究目標とどう関連するのか、進捗状況の検討と合わせて再考が求められます。(E)
- ・協同学習室の利用、研究会等への参加の進展が期待されます。(F)
- ・学生、教員の取組みが今後ますます活性化することを期待しています。(G)
- ・行動計画として公開授業の実施は評価できます。FD研究会開催とは別の研究計画として、その進捗を評価することが期待されます。(I)